

花壇づくりワークショップ ニュースレター

Vol. **04**
令和5年3月1日号



日時：令和5年3月1日（水）

10:00～12:00

場所：馬見丘陵公園

ボランティアハウス

参加者：26人

10:00～10:10 全体説明

10:10～10:20 現状花壇の説明

10:20～10:30 春花壇の方針の説明

10:30～11:00 テーマ、メイン植物決め

11:00～11:10 植物紹介

11:10～11:15 ハンギングデザイン説明

11:15～12:00 花壇デザイン（6班）

今回のワークショップでは、春花壇作成に向けて現状花壇の説明、春花壇の方針・ハンギングバスケットデザインについての説明を行い、花壇のテーマをサポートの皆さんで決めて、それを元に花壇デザインを行いました。



現状花壇の説明

現状の花サポーター花壇を見ると、多くの花苗が冬の期間に枯れてしまい、隙間ができ土がむき出しの状態が目立っています。冬越し出来ていない1、2年草や宿根草は取り除き、春花壇の施工がしやすいよう綺麗に整えてあげましょう。

花壇の花苗や低木で、冬越しできたものはそのまま残すことができます。現在の花壇では共通背景としている低木類や、ランタンキュラス、カレックスなどの冬を越した花苗はそのまま残し、春花壇にも使用することができます。

また花壇内にはチューリップの球根が新たに植えられている箇所があります。春花壇の施工時にはこのチューリップの球根を傷つけてしまわないように注意しながら、今回の春花壇デザインワークショップで選定した花苗たちを上手く組み合わせましょう。一緒に咲く姿が楽しみです。



▲写真1：現在の花壇の様子



▲写真2：冬越し出来た植物たち



春花壇の方針について

春花壇のデザインにあたって、ボーダー花壇の植え付けパターンや統一感の出し方について講義を行いました。

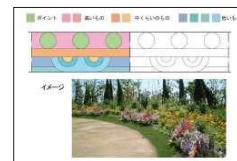
◆ボーダー花壇の植え付け◆

花サポーター花壇の植栽はボーダー花壇です。ボーダー花壇とは、イギリス発祥の花壇づくりの手法のひとつで建物や塀、庭の小径などに沿って作られている花壇のことをいいます。手前に背丈の低い植物を配置し、奥に行くにつれて背の高い植物になるように植栽します。植え付け方には様々なパターンがあり、講義では事例写真を交えていくつか紹介しました。花壇づくりのテーマやメインの植物に応じて選ぶと良いでしょう。



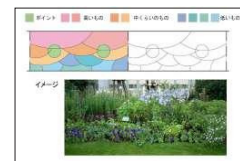
▲写真3：

横一列に同じものを植えた基本のパターン。ボーダーラインで分かれていますので、見た目もはっきりしており分かりやすい。



▲写真4：

ポイントとなる背の高い木を等間隔に配置したパターン。背景と前面を異なったデザインで構成しており、要所要所の注目点を設けるつくり方。



▲写真5：

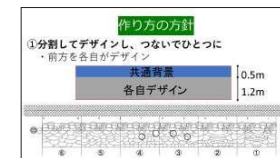
植栽を同系色でまとめたパターン。テーマカラーが一目で分かり、全体のバランスが取れたものになりやすい。



▲写真6：

植栽を細かく分けたパターン。細かく分けすぎるとデザインが難しくなるが、この写真の○のようにアクセントとなる色や形のものを組み合わせると花壇としてバランスの取れたものになる。

花壇デザインでは秋花壇のデザインと同様に花壇全体を班ごとに6つに分割し、それぞれのデザインを繋いでひとつにするので、テーマや背景となる植物、コンテナの位置などを共有し、統一感を出すことをめざします。



▲写真7：6つに花壇を分割してデザイン

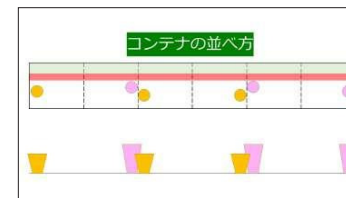
◆コンテナの植え付け、配置◆

コンテナのデザインにおいても、見る方向により合わせたデザインが必要です。写真8の左側のデザイン（図の○で囲ったもの）は360度全体から見る場合を想定した、どの方向からも美しく見える配置になっています。今回のボーダー花壇のように正面など一方向から見る場合は、中央や右側（図の○で囲ったもの）のように前方に背の低い植物、後方に背の高い植物を植栽するデザインが向いています。

また、各班の作業量を均一にし、秋花壇のデザインから更新するため、皆さんでコンテナの並べ方も検討しました。複数の案から多数決をとった結果、線対称型の配置に決定しました。（写真9）



▲写真8：コンテナの植栽デザインの例



▲写真9：決定した春花壇でのコンテナの配置

植物紹介

◆春花壇で使用可能な花苗◆

春花壇のデザインにあたり、ボーダー花壇、コンテナ花壇、ハンギングバスケットで現在市場に出ている使用可能な花苗をご紹介します。アイスランドポピー、西洋ノコギリソウ、アスター、カスミソウは花サポーターの皆さんが種から育てた苗なので、今回のデザインの中で積極的に使用したいと考えています。花壇をつくる時は、草丈や葉の広がり方、花期、花色などからイメージする花壇に合うものを選定しましょう。

【ボーダー花壇】

草丈：低



▲ビオラ ▲リシマキア・ヌムムラリア



▲クリサンセマム・ムルチコレ ▲ツルコザクラ



▲ホシギキョウ ▲ネモフィラ

草丈：中



▲カリフォルニアポピー ▲ピンビネラ



▲ルピナス・ピクシーデライト ▲セリンセ・マヨール



▲クラスペディア

草丈：高



▲ラークスパー



▲デルフィニウム



▲ジキタリス

花サポーターの皆さんが種から育てた苗



▲アイスランドポピー ▲西洋ノコギリソウ



▲アスター ▲カスミソウ

【コンテナ花壇】



▲ペロニカ・マダムマルシア ▲フィリカキドウシ



▲セリンセ・マヨール ▲カンガルーポー



▲ブラキカム・プラスコ ▲アスター

【ハンギングバスケット】



▲スーパーアリスサム ▲キングヨソウ

◆手入れしやすい花壇の作り方◆

花色や草丈のほか、花壇をつくる時の植物選びのコツとして、手入れのしやすい花壇をつくるポイントをご紹介します。

1つめのポイントは、できるだけ長く咲く花を選ぶことです。一年中咲く花や、春から晩秋まで長く咲き続ける育てやすい花を取り入れると植え替えなどのお手入れが減り、忙しい人でも花いっぱい花壇を長く楽しむことができます。

2つめは、カラーリーフなどの葉を楽しめる植物を活用することです。美しい葉を持つ植物は花と同じように華やかさと落ち着きをもたらす、花壇にメリハリをつけてくれます。葉は「花がら摘み」や「切り戻し」といったお手入れも必要最低限で済み、丈夫で手間がかかりにくいものが多いのも魅力です。花壇のところでポイントとして植えたり、花と花の間に植え込んで手入れのしやすい花壇作りをする際に役立ててみてください。

カラーリーフの例



▲アジュガ



▲カラジウム

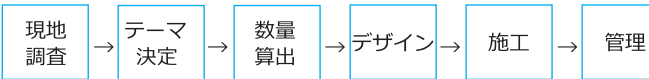


▲シロタエギク

花壇デザインワークショップ

◆春花壇のテーマ◆

花壇の製作は、



というステップで作業を進めます。

以前のワークショップではテーマを一から考えることが大変だということも見られたため、今回は“春の陽気に集まる歌声”という仮テーマを叩き台に、皆さんから意見を募り、改良を加えました。“春の陽気に流れる歌声”、“陽気に誘われ歌声が聞こえる”など様々な案が出ましたが、テーマはなるべくシンプルで直感的に分かりやすいものが良いという意見も踏まえた結果、今回の春花壇のテーマは“春の歌声ラララ♪”に決定しました。

◆花壇デザインワークショップ◆

テーマの決定後、6つの班に分かれ、各班ごとにそれぞれデザインを行いました。ボーダー花壇の基本となる、手前に低く、奥に高い植物を配置することを意識しながら、各班検討して作業を行いました。

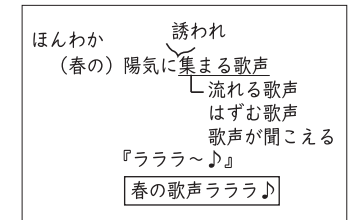
デザインを考える際は植えた後の植物の成長も考慮し、スペースを広めにとった花苗の配置が重要です。特に春は秋よりも植物が大きく成長するため、注意が必要です。ワークショップではデザイン範囲を10cm四方の升目で区切ったデザインシートを使用し、4ポットの中心に1つの花苗を植えるイメージでデザインをしました(写真12)。

花サポーターの皆さんが育てたカスミソウは、広がって成長する事を考慮し、花壇の中段から後方に帯状に配置して全体の統一感を演出しました。植物を配置する際には、カスミソウを背景にして手前のデザインを考案すること、コンテナを配置するスペースを考慮しておくことに注意してデザインしていただきました。

今回の花壇施工のワークショップでは、今回考えていただいたデザイン案をもとに花壇施工を行います。今回はグループで作業を行ったため花壇を6分割してそれぞれでデザインしましたが、苗を購入する際の市場性や隣の班とのデザインを考慮しながら、花壇全体のまとまりがとれるように調整させていただきます。昨年から引き続き使用する花苗や新しく植えられたチューリップと合わせて、どんな花壇が出来上がるのか楽しみです。



▲写真10：テーマ決めの様子①



▲写真11：テーマ決めの様子②



▲写真12：花苗の配置方法



▲写真13：デザインワークショップの様子①



▲写真14：デザインワークショップの様子②